

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310015	XZY1310015			国際学部国際文化学科	専門	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	1年
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

### ゼミテーマ・タイトル

家計経済学・家族社会学入門—経済とジェンダー入門

### 内容

後期は下記テキストを使用してジェンダーという視点から仕事、家事労働、結婚、出産・育児などについても考えます。どちらかと言えば日本が中心になります。世界でもまれにみるほどに女性に偏った家事労働について、なぜそれが発生するのか、どうすれば男性は負担を増やすのかなどを考えたいと思います。

単に報告だけでなく、図書館を利用したグループワークも取り入れていきたいと思います。

### 使用予定テキスト

川口章, 2013年,『日本のジェンダーを考える』有斐閣(1,900円+税)

ただし、すべての章を扱わないと思います。

### ゼミの進め方

前期と同じです。

### 成績評価基準

前期と同じです。念のために書いておきます。

出席50%、ゼミでの発言や取り組む姿勢(レジュメの作成など)30%、課題の提出20%。ゼミ中の態度や遅刻があまりにひどい場合、前期・後期のタームレポート未提出者には、たとえ欠席がなくとも単位を与えません。原則として欠席は認めません。

### ゼミ選択上のアドバイス

1年生: 前期「基礎ゼミナール1」で私のゼミを履修した1年生は履修しなければなりません。

2年生以上: 学習指導委員の指示に従ってください。

### その他

ここ数年にわたって家事・育児について研究してきました。これらは2年ゼミ、3・4年ゼミ、卒論指導でも扱ってきたテーマもあります。そこで交わされた議論が少しでも還元されればと思っています。

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310015	XZY1310015			国際学部国際文化学科	専門	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	1年
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

### ゼミテーマ・タイトル

#### 紛争と和解の政治学

#### 内容

##### 予定学習内容

##### ワークショップ :

大学で学ぶ意味について考える。  
プレゼンとコミュニケーションについて学ぶ。  
社会正義の志向性をインタビューで調べる。  
シャルリ・エブド襲撃事件を考える。  
保護責任の原則と人道的介入。  
壁／橋モチーフに紛争と和解を語る。  
内乱迫る国の首相の演説。  
写真から物語を作る。

##### 映画鑑賞 :

カッコーの巣の上で  
フィラデルフィア

##### 専門書読解 :

デモクラシー（民主主義と民主制）について考える。  
スウェーデンの移民政策、向かうべきその先は？  
集合的記憶と歴史、フランスの問題。  
西ドイツとイスラエルの和解、そして中東戦争。  
移行期正義と国際刑事裁判所、法は和解をもたらすことができるのか？  
人間の安全保障について考える。

##### 映像資料 :

スコットランド独立投票を通じて国家について考える。  
貧者の兵器、テロについて考える。  
国際平和映像祭の作品鑑賞。  
ベルリンの壁、ソ連邦の崩壊。  
日本について考える。

##### 大学近所の散策 :

みなで歩きながら遊びながら、大学という広場のあり方について考える。  
使用予定テキスト

##### 教科書 :

松尾秀哉・臼井陽一郎編著『紛争と和解の政治学』ナカニシヤ出版。

##### 参考書 :

会田誠・樺木野衣『戦争画とニッポン』講談社  
藤原辰史『食べること考えること』共和国  
中村寛『残響のハーレム』共和国

#### ゼミの進め方

紛争と和解をテーマに、文学や映画の作品を読み解き、専門書にもチャレンジし、グループワークで意見交換しながら、世界の見方・世界への関わり方について、みなで協働して構想してみたい。

#### 成績評価基準

グループワークおよびプレゼンテーション（どのようなものであれチームの中でなんらかの貢献ができていたか）50%  
毎回のコメントカード（授業で学んだことを毎回適切に記録しておくことができたか）50%

#### ゼミ選択上のアドバイス

大学生活前半、まずは自分自身の関心の幅を確認するところからスタートしてみてはどうか。狭いタイプなら深めればよいし、広いタイプなら色々なことをむすびつけてみるといい。大切なのは今現在の自分自身のモノゴトの考え方をぜったいに卑下したりしないこと。これまでの人生、まったくもって短いものであるにしろ、それなりの認識の力を手にしてきてはいるはず。まずはその力に気づいていくところからはじめたい。これまで自分が生きてきた環境と自分自身の生き方スタイル、この双方が培ってきた自分自身の思考のシステム、これを明確に意識していこう。しかしそれを自分一人でやりとしたらしんどい、だからゼミがある。毎回かならず誰かとなにかしら話をしなければいけないゼミにしたい。人と交わるのが苦手な学生は自分を変えてみるチャンスになる。イツメンと手を繋いでイツメンとだけ目を合わせあとは沈黙したまま帰っていく学生も、自分を変えてみるチャンスになるかもしれない（そんな自分が恥ずかしいと思えるようになるかもしれない）。人生何事もかならずや本質的な何かへの準備的なトレーニングになりうる。人とかかわるのが得意な学生は本領発揮して苦手な学生を巻き込んで全体を盛りあげ、苦手な学生も自分なりにできることをみつけてほしい。人の話をじっくりときいて上手に頭（うなづ）き話し手に自信をもたせてあげののも、とても大切な貢献になる。楽したい人は想い存分楽して好いと思う。でも、20年後の後悔は激痛となってこころを襲う。問題意識の開拓は今しない。

#### その他

LINE グループで連絡し合うので、スマホでない人は PC で利用してもらうことになる。そのつもりでいてほしい。



科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310015	XZY1310015			国際学部国際文化学科 国際学部国際文化学科英語集中コース	専門 専門	必修 必修	1年 1年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	×	×	×
基礎ゼミナール2	藤本 直生	2	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降) 情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降) 情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度) 情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度) 情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	× × × × ×	× × × × ×	× × × × ×

### ゼミテーマ・タイトル

英字新聞を読んで、英語でエッセイを書いてみよう

#### 内容

皆さんには、英字新聞を読んだことがありますか。このゼミでは、毎回 Mainichi Weekly という大学生向けの英字新聞を読むことに挑戦します。ちょっとむずかしそうに聞こえますが、コツをつかむと英字新聞もどんどんと読めるようになりますので心配しないで下さい。

前期の基礎ゼミナール1では、内容を確認して要約したり、そのことについてどう思うかみんなで話し合い、1つの記事につき 200 ワードの英文エッセイを書きます。後期のこの基礎ゼミナール2では、そのエッセイをもとにそれらを政治、経済、社会などの分野に分けて、いくつかをまとめて先行文献の紹介として書く方法を学びます。そして、最終的に自分の意見やそれをサポートする文献の加えて、1,000 ワードのエッセイを学期末に完成させます。

なお、このゼミでは Extensive Reading (略して ER、多読) も併せて行います。ER では図書館にある英語の本から自分の興味ある内容の本を選んで、昼休みや放課後等の時間を使って各自のペースで読み進め、ボキャブラリーを増やして英語力の基礎も身に付けます。

#### 使用予定テキスト

Mainichi Weekly より次のような記事を読む予定ですが、その他にも最新の記事を付け加えて行きます。

- “Taxing Issue” 消費税率 8% に引き上げへ 阿部首相が表明、2/15/2013
- “Monkeys Attract International Crowd” 長野県「地獄谷野猿公苑」にて、2/15/2014
- “Remembering MLK” キング牧師「私には夢がある」演説から 50 年、9/7/2013
- “Booming Bollywood” インド映画の新時代「きっと、うまくいく」8/10-17/2013
- “Connecting Cultures” ケリアン・パノス氏に聞くコミュニケーション学、3/9/2013

#### ゼミの進め方

基礎ゼミナール1で取り上げた英文記事の分類の仕方、エッセイ・プランニングの方法などについてグループで話し合いながら進めます。なお、エッセイの長さは約 1,000 ワードとします。このようなエッセイ・ライティングの活動を通して、基本的な英語での論文の書き方を学びます。

#### 成績評価基準

- ①出席・授業態度 30 %、②英文エッセイ 40 %、③ER 20 % ④ファイル・マネージメント 10 %
- 以上 4 点を総合して成績をつけます。なお、エッセイは期日までに提出すること。

#### ゼミ選択上のアドバイス

大学に入学して間もない皆さんが 4 年後のことを考えるのはむずかしいと思いますが、4 年生になつたら英語で卒業論文を書きたいという人は、ぜひこのゼミを選んで下さい。また、英語を読んだり書いたりすることに自信を付けたいと思っている人もどうぞ。エッセイの書き方については充分に時間をかけて説明します。

#### その他

授業で配布するプリントは、ファイルを用意してきちんと綴じて下さい。ファイル・マネージメントも成績評価に加味します。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310015	XZY1310015			国際学部国際文化学科 国際学部国際文化学科英語集中コース	専門 専門	必修 必修	1年 1年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	×	×	×
基礎ゼミナール2	小山田 紀子	2	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降) 情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降) 情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度) 情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度) 情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	× × × × ×	× × × × ×	× × × × ×
ゼミテーマ・タイトル							
国際社会を見る眼を養おう							
内容							
基礎ゼミナール1と同じテーマで進めていきます。							
後期のこのゼミナールでは、その中でも世界の若者について考えていきたいと思います。							
フランスの移民暴動やその後の大学生を中心としたデモ活動による政治参加など、フランスの若者の活動を見ていきます。またアラブの春と呼ばれる中東の変革の波の契機となったチュニジアのジャスミン革命の様子を映像を交えて勉強します。これらの民主化の動きは若者が中心に進められつつあります。							
一方、日本でも格差問題や雇用問題など、深刻な問題が顕著になってきています。日本の若者にも世界の若者たちとの共通点があると言えるでしょう。日本という国の歴史と現在について学び、今の日本の課題とこれから日本人の生き方を考えていきたいと思います。							
後期は、新聞記事なども活用して、時事問題についても皆さんと議論していきたいと思います。							
使用予定テキスト							
入江昭『平和のグローバル化へ向けて』、小熊英二『日本という国』、山本三春『フランス ジュネスの反乱』(朝日新聞社)、宮島喬『ヨーロッパ市民の誕生』(岩波新書)、水谷周編著『アラブ民衆革命を考える』(国書刊行会)等を考えていますが、テキストは未定。							
ゼミの進め方							
第1回目のゼミでテキストを決定し、これを全員で輪読します。毎回報告者は、担当の個所を読んでレジュメを作成してきて発表します。それに対して、他の学生も質疑応答して議論に参加します。テキストを読み終えたらレポートを作成してもらいます。これらを通して、本の読み方、議論の仕方、レポートの書き方など、基本的な勉強の方法を学びます。							
成績評価基準							
ゼミでの発表の内容、レポート、出席状況とゼミ活動に積極的に参加しているか等により評価する。							
ゼミ選択上のアドバイス							
大学生活にも慣れてきた後期においては、ゼミナールの中での学生同士の交流も進めていきたいと思います。ゼミでの発表に当たっては学生の皆さんにも司会をしてもらったり、他学年のゼミナールとの合同ゼミなどを試みたいと思います。積極的にゼミ活動に参加することを期待します。							
その他							

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310015	XZY1310015			国際学部国際文化学科	専門	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	1年
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
		2	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
基礎ゼミナール2	熊谷 卓			情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル 「法律学ってけっこう役に立つ!？」

内容

#### ●新入生への一言

Congratulations on passing the entrance exam. さて、大学にはゼミナール(ゼミ)という時間があります。ここでの主役は先生ではなくて参加しているすべての学生です。ですから、ゼミの時間を楽しくするもしないも、主役である皆さんにかかっているといつてもよいでしょう。ゼミでどうか「スター」になってください。

●内容(目的やねらいも含む) 貸貸借契約、遺言、黙秘権、表現の自由、国際条約、ということばに共通するものはなにか、と問われれば、なんど答えるでしょうか?「法」とか「約束」という答えを想定することができるとは思いませんか。

より細かく見れば、それぞれ民法(借地借家法)、刑法(刑事訴訟法)、憲法、国際法といった具合です。そして、わたしたちは実は様々な場面で、この法と関わっているということができます。

ところで、ほとんどのみなさんは法的にみて、「未成年」の年に1年生ゼミナールに参加することになります。2年後には、およそすべての法律の適用対象となってしまいます。原則として、もう少年(少女) Aではありません。その前にできるかぎり、法というものの考え方に対する接しておくことは決して無駄ではないとは思いませんか。

そこで、このゼミナールは、各ゼミ生の法的な思考をより深めさせることを目的とし、また目標としています。

具体的にいうと、同性間の結婚、死刑廃止の是非、男女区別の合法性(レディース・デイとは男性に対する差別か、適法か)、美容整形に納得がいかないときの慰謝料、児童の権利といったトピックや問題について法という視点を通して検討してゆきたいと考えています(そのほか、学生の希望テーマも取り上げます)。

難しそうに思えますが、できるだけ具体的に検討します。どうか、安心してください。また、皆さんにとってゼミを受けることは初めての経験だと思いますので、報告のやり方、レポートの書き方については、十分に時間をかけて説明をする予定です。

その他、学生のみなさんの希望に応じて、英語(洋楽を聞き、その歌詞から学ぶとか)や初級のフランス語に親しむべく、英語やフランス語を少し学習することもあるかと思います。

#### 使用予定テキスト

松井ほか『初めての法律学』有斐閣

『わたしたちと法』現代人文社

円道祥之『空想科学裁判』宝島社 など

#### ゼミの進め方

まずは、指定したテキスト(文献)をゼミ生全員で読み、それについて議論をしてもらうということを考えています。その後、各ゼミ生が自分で選択したテーマを素材に、報告をし(自由報告)、それについてゼミ生全員で検討するというかたちでゼミを進めます。

レポートの提出を求めるとも考えています。

#### 成績評価基準

報告やレポートの良し悪し、ゼミへの参加度を基準に成績をつけます。

#### ゼミ選択上のアドバイス

上にみた「内容」でとりあげたような諸問題に関心がある学生の参加を求めます。これらの問題について自分なりの意見をしっかりと提示できるよう、十分なリサーチをし、その上でなにか問題を解決・調整してやろうというやる気をもった学生を歓迎します。

繰り返しになりますが、報告のやり方、レポートの書き方については、十分に時間をかけて説明をする予定です。ですので、安心してください。ちなみに、ゼミでの食事会(未成年者が対象なので)を行うこともあります。

#### その他

楽しいゼミにしたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310015	XZY1310015			国際学部国際文化学科	専門	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	1年
				情報文化学部情報文化学科	×	×	×
基礎ゼミナール2	佐々木 寛	2	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

### ゼミテーマ・タイトル

#### 知の旅への誘い

##### 内容

身の回りのできごとや日常の生活を掘り下げてゆく中から世界へと通じる回路を発見していくことができるような本当の意味での社会科学的センスを、それぞれが自分なりに獲得することを目標にします。新しい「知識」と出会い、それに触発されて思考し、またそれを表現し、他者との相互対話を通じて自分自身が自由になってゆく、そんな「学問」の楽しさを分かち合いたいと思います。それゆえテキストは、「面白い」と思われるものならジャンルも年代もこえた多種多様なものを用います。高校や予備校までの、あるいは家庭や世間一般の知的なしがらみをいったん解きほぐしてみることで、専門知識を蓄積する以前の柔軟な知的土壌をそれぞれがつくりあげることを目指します。

##### 使用予定テキスト

以下、一例。

- ◎C. ダグラス・ラミス『考え、売ります。』平凡社（ファンタジー）
- ◎黒澤明『羅生門』（映画）
- ◎鷲田清一『ちぐはぐな身体』ちくまプリマーブックス（哲学）
- ◎井上ひさし『父と暮らせば』（演劇）
- ◎田口ランディ『根をもつこと、翼をもつこと』晶文社（エッセイ）
- ◎A.スピーガルマン『マウス』晶文社（コミック）
- ◎阿部謙也『自分のなかに歴史をよむ』ちくまプリマーブックス（自伝）
- ◎G.オーウェル『1984年』ハヤカワ文庫（小説）
- ◎S.アレクシエービッチ『シェルノブイリの祈り』岩波書店（ルポルタージュ）
- ◎中江兆民『三醉人経緯問答』岩波文庫（政治思想）など。

##### ゼミの進め方

基本的にさまざまなテキストを共同で読みこんでいきます。その他、ゼミ合宿や、戦争経験の聞き取り調査なども予定しています。さらに具体的な運営方法に関しては、参加者と相談して決めます。

##### 成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度 + レポートの出来。

##### ゼミ選択上のアドバイス

佐々木ゼミの参加者は以下のいずれかを条件とします。

1. ゼミという「社会」を自分でつくりあげることに意欲のある学生。
2. 価値あるものには苦労をいとわない学生。
3. おしゃべりが好きな学生。
4. 知的好奇心が旺盛な学生。

##### その他

#### 新入生への一言

大学はこれまでのつまらない「勉強」ではなく、よりよく生きるために必要となる「学問」を自分の思うまま存分にできるところです。「勉強」が苦手だった人も、（むしろそういう人こそ！）「学問」のたのしさを是非味わってみてください。そのためのお手伝いができればと思っています。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310015	XZY1310015			国際学部国際文化学科	専門	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	1年
基礎ゼミナール2	山田 裕史	2	後期	情報文化学部情報文化学科	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

### ゼミテーマ・タイトル

#### 大学で学ぶための知的技法の習得

##### 内容

大学での学びにおいて大切なことは、暗記した内容を試験で答えるという高校までの学びとは異なり、自ら問題を見つけ、それを整理して、自分なりに考えて答えを導き出す能力を身につけることです。

本ゼミナールでは、講義でのノートの取り方、文献・資料など情報の探し方とその整理の仕方、プレゼンテーションの仕方、レポートや論文の書き方など、大学生として不可欠な学びの技法を、グループワークを通じて習得します。これらは、大学での学びに不可欠な「問い合わせ立てて、調べ、考え、表現する」というプロセスの初步的なトレーニングと位置づけられます。

##### 使用予定テキスト

佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦編著『アカデミック・スキルズ——大学生のための知的技法入門』第2版、慶應義塾大学出版会、2012年

上記のテキストのほか、新聞記事や雑誌記事を適宜、配布します。

##### ゼミの進め方

(1) 文献の講読と討論、(2) 各自のリサーチに関するプレゼンテーション、を組み合わせて行います。また、本ゼミナールで学んだ技法をもとに学期末にレポートを執筆します。

##### 成績評価基準

(1) 出席、(2) 文献講読と討論の内容、(3) プrezentationの内容、(4) レポートの内容、をもとに総合的に評価します。

##### ゼミ選択上のアドバイス

ゼミで講読する文献（新聞記事や雑誌記事）は、主に国際協力や東南アジア、紛争と平和に関するものを取りあげるので、それらの分野に関心のある学生はとくに履修を勧めます。

##### その他

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310015	XZY1310015			国際学部国際文化学科 国際学部国際文化学科英語集中コース	専門 専門	必修 必修	1年 1年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	×	×	×
基礎ゼミナール2	越智 敏夫	2	後期	情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降) 情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降) 情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度) 情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度) 情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	× × × × ×	× × × × ×	× × × × ×

### ゼミテーマ・タイトル

世の中について考えるはどういうことか？

……言いかえれば、

他人の幸福や不幸と自分のそれとは関連するのか？

### 内容

#### 【新入生の皆さんへ】

本当は別のことをしていいだけれど、でも才能とかお金とか、いろんな制約があるので、今はこうしてここでつまらない人生を送っているんだ、とは絶対に考えないほうが良いと思います。そうやって自分をだます言い訳ばかり考えているうちに、本当にゴミみたいな人間になっていくんじゃないでしょうか。「今ではないいつか、ここではないどこか」における人生ってのが存在するのなら、誰も苦労はしていないし、みんな、もっともつとおちやらけてるはずでしょう。

以上のことを前提にして【ゼミ内容】を少しまじめに書くと、ものを読み、考え、議論し、それを文章にまとめる、という一連のことをします。当たり前といえば当たり前のことをするわけです。しかしこれは大袈裟に言えば、共同で知的訓練をつむという作業です。中心になるのは議論をするということですから、黙っていても単位はもらえるだろう、と思う人は来ない方がいいです。

そして【何について議論するか】というと世の中についてです。なんでもまた自分以外のことについて考えないといけないかと言うと、それが結局自分の幸福について考えることになりますし、また自分自身を幸福にすることにもつながるはずだからです。その意味で言えば、新聞を読まない人は絶対に幸福になれません。その理由を考えるゼミもあります。ただし、ゼミでの議論がいくら盛り上がり上がっても、各自の目的意識を欠いては、ただの「お遊び」でしかありません。他はどうでもいいけれど、現代社会のここだけは絶対許せない、という獣のような批判精神ある学生の参加を期待します。

### 使用予定テキスト

ゼミ参加者と相談して決めます。

#### ゼミの進め方

特定のテーマに関する論文や記事、書籍を全員で読んで、その内容について議論します。全体の進行を担当する「司会」、内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのみつの役割を順番に担当します。数回でひとつのテーマを終了する予定です。終了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

#### 成績評価基準

ゼミナールですから出席を重視します。各セメスター、3回までは欠席しても単位を出しますが、それ以上欠席すると単位は出しません。欠席の理由は問いません。バイトだろうが、風邪だろうが、欠席は欠席です。

#### ゼミ選択上のアドバイス

また、これも自分をだまさないことでしょう。【新入生への皆さんへ】で書いたのと同じです。本当は遊びたいのに、きついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そのところをよくよく考えてください。

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習